

#カーテン

お手軽メニューで
いざTRY

#ベッド

#ロープ

#スターター

#インバーター

#ネット

海でも…

山でも…

所有車で

【実践・検証】
車内泊
の
ココロ

プチ体験!

ドアtoドアで自宅の外へとつながる安心空間—マイカーにはそんな側面がある。泊まり掛けの遠出は、何もキャンピングカーだけの特権ではない。いま乗っているマイカーだって、ちょっとした用品の追加で、快適に晩を越せるベース基地にもなる。車内で泊まる“車内泊”。そのごく入口にある代表的用品の実際をあらためてチェックしてみよう。今から始める新しいクルマ旅を、春を契機に、今こそ!

景観地
でも…

ターミナル
でも…



くるま旅サイトで
さっそく検索!

<https://www.kurumatabi.com>



RVパークは、おなじみの道の駅だけでなく、温泉や旅館など、宿泊設備を併った駐車場に併設される場合が多い。

全国各地に
さまざまに展開中!

車内でひと晩を過ごすといっても、どこでもいいというわけではない。割り切った旅だとしても、最低限の水回りや電気環境はないとキケンだし、パーキングエリアや道の駅では、マナーの是非を問われる場合もある。近くで寝泊まりされるのを嫌う人、困る人も多いのが実際だ。

そこで注目したいのが、そんな諸問題をすべて解決してくれる専用施設。最近着々とその数を増やす「RVパーク」の存在だ。

元々は、キャンピングカーや

トレーラー向けの施設とはいえ、今ではファミリーカーが利用できる素地も整っている。トイレを完備し、100V電源も使え、ゴミ処理も可能なら、入浴施設も近隣にありと設備環境も充実。有料ながらも通常の宿よりは格段に値頃で、しかも個々人料金ではなく1台いくらの料金設定も多い(人数によっては料金がプラスになる施設もあり)。事前予約も可能なら連泊もまたOK。何より周囲に気兼ねなく車内で寝泊まりできるのがいい!

クルマ旅が、非日常ではなく日常の延長に。その数、全国各地に広がる一方のなか、これは利用するっきゃない!

車内泊向け
専用施設に
注目!



電源供給のインフラは、専用施設ならではの備え。こそこそと拝借することもなく、堂々と使える環境が整っている。



ひと晩を過ごすなら、水回りの確保はライフライン。RVパークは、24時間利用可能なトイレの設置が前提となっている。